

福井大学学術協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（12月）

留学先：カセサート大学

氏名：土田郁子

12月はほとんど授業がなく、期末テスト期間でした。私は幸いにもテスト期間の最初の週ですべてのテストが終わったため、中旬から下旬にかけてのびのび過ごすことができる月でした。

上旬、テスト期間であるにも関わらず、12月5日にタイ語クラスでバンコクトリップへ行ってきました。ワットポー、民族博物館、水上マーケット、川の町へ行ってきたのですが、ワットポー以外の場所は、1年生の時PBLでタイに訪れた際に行かなかった所だったので新たな観光スポットと文化の発見があって楽しい旅でした。1日と短い時間ではありましたが、もうすぐで帰国してしまう友人たちと最後に楽しく過ごせて良い思い出となりました。

肝心のテストですが、中間テストよりは効率よく勉強できたかと感じています。結果、すべてのクラスで単位を取ることができ、中でも”Structure of Thai Economies”はA評定をもらうことができました。単位交換もうまくいきそうなので秋セメスターはとても好調だったのではないかなと思っています。春セメスターからはPBLのことも考えなければならないのですが、このまま留学先で卒業必須単位数を順調に取っていきたいと思います。

春セメスターからの課題は、PBLだけでなく就活もあります。Offer Boxでやり取りが続いている会社から、選考に進むように勧められたので1月8日にWebを介して面接をすることになりました。これが私の初めての就活としての面接なので、正直全くわからないまま準備をして臨むことになると思います。恐らくはじめは失敗すると思うので、失敗から課題を見つけ出して次に活かせるように自己分析をしていこうと思います。

しかし、最初は留学中に就活をして、4年で卒業することを目指していたのですが、留学中にまだまだ学生としてやりたいこと、学びたいことができたので帰国後の予定も不透明になってしまいました。就活は続けるつもりですが、自分を見つめなおして帰国後の予定もこの留学折り返し地点で考え直そうと思いました。

12月中旬くらいに、木村学部長、寺岡前学部長、速水さんがタイにいらっしゃいました。本当にタイには福井大学の方々がよくいらっしゃると実感し、ありがたいことだと思いました。このような機会でないとなんか話することがなかったので、先生方と学部のことに関してお話できて貴重な時間を過ごすことができました。2月には1年生と小幡先生がPBLでタイにいらっしゃるので楽しみです。カセサート大学でできた友人たちが続々と帰国していくところだったので、本当にどんどん寂しくなっていく最中に、先生方からお声がけいただいて幸いでした。

そして年末にバリ島へ行ってきました。インドネシア発の航空機墜落、インドネシアで津波発生と不安になるニュースがあった2018年でしたが、無事行って帰ってきました。バリ島はとても良いところで、話すと長くなるので多くは語りませんが、また来たいと思えるような美しい島でした。旅の途中で友人と有名なバーに行き、偶然隣に座ったインドネシア人の男性と少し談笑しました。彼はリゾートホテルの社長であり建築関係の教授であることがわかり、今度バリに来ることがあったらホテルを紹介すると言ってくれました。出会った人が社長だからというわけではありませんが、こういうなかなか繋がりにくい繋がりを結んでくれる役割を英語が担ってくれているなど感じるので、こういう一期一会な機会に巡り合うために留学をして、留学をするために今までTOEFLを頑張ってきたのだなと思うと、今までの大学生活が報われて、後悔もありますがやってきたすべてが良かったと思えます。私の留學生活が、はたから見ると理想的で効果的だとは思いませんが、私自身がたくさんの貴重な出会いを通して新しい気付きを見つけることができるのであれば、私にとっては良い留學生活だと思います。そんなことを旅の途中での出会いや友人との会話で気付きました。留學する前に掲げた目標も大事なので効果的な留學である必要もあるのですが、それをずっと意識し続けることは疲れるので、普通に過ごして得られる小さな経験も成長につながるのではないかなと思います。

春セメスターも、無駄なくというのは難しいので、適度に頑張っていこうと思います。



↑バンコクトリップの時の写真



↑バリ島の棚田でブランコに乗った時の写真